



京都大学 宇治キャンパス公開2026

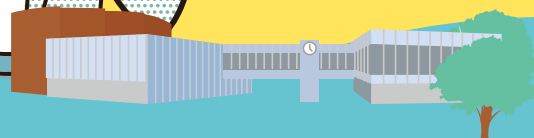
ひらけ！
科学の
玉手箱

10.17 SAT/18 SUN
10:00-16:00

君の『知りたい』が
世界を変える



化学研究所 エネルギー理工学研究所 生存圏研究所 防災研究所
大学院農学研究科 大学院エネルギー科学研究科 大学院工学研究科
成長戦略本部 研究連携基盤 総合研究推進本部 (KURA)



宇治キャンパス公開2026へようこそ

京都大学宇治キャンパス公開2026にお越しいただき、誠にありがとうございます。

京都大学には、大きく分けて吉田・宇治・桂の三つのキャンパスがあります。宇治キャンパスは1949年に発足し、70年以上にわたり京都大学の教育・研究の一翼を担ってきました。現在は、自然科学・エネルギー系を中心とする研究所や研究組織、大学院の一部が置かれ、最新鋭の研究設備を備えたラボが集まる、科学技術研究の拠点となっています。また、季節ごとに草木が彩る緑豊かな環境も、宇治キャンパスの特徴です。

キャンパス公開は、普段は目にする機会の少ない研究の現場を知っていただき、研究者や学生との対話を通じて、科学を身近に感じていただくための機会です。今年のテーマは、「ひらけ！科学の玉手箱 一君の『知りたい』が世界を変えるー」です。

科学は、身の回りの小さな疑問や、「なぜだろう」「もっと知りたい」という気持ちから始まります。本公開では、公開ラボ、展示、講演などを通して、宇治キャンパスで進められている研究の一端をご紹介します。研究の成果だけでなく、問いを立て、観察し、考え、確かめていく科学の過程にも触れてみてください。

世話部局である京都大学化学研究所は、宇治キャンパスの発足に先立つ1926年に創立され、本年、創立100周年を迎えます。化学を出発点に広がってきた研究の歩みと、これからの科学の可能性を感じていただければ幸いです。

この二日間で、皆さまにとって新しい発見や関心につながる時間となることを願っております。



世話部局代表 京都大学化学研究所 所長 島川 祐一
実行委員長 京都大学化学研究所 教授 廣理 英基

もくじ

宇治キャンパス公開2026

総合展示、トークライブ、部局講演会、公開ラボ.....	1
宇治キャンパス公開2026プログラム.....	2~3
宇治キャンパス公開2026キャンパスマップ.....	4~5
宇治キャンパス公開2026トークライブ.....	6
部局講演会.....	7~8
公開ラボ(宇治キャンパス会場).....	9~16
公開ラボ(宇治川オープンラボラトリー会場) ※事前予約者のみ見学可.....	17~18
参加部局の紹介.....	19~28
宇治おうばくプラザ.....	29
宇治キャンパス紹介.....	30
アクセスマップ.....	31

宇治キャンパス公開 2026

●プログラム番号 ➡ 参照ページ

総合展示

①

宇治キャンパスにある各研究施設の最新の研究内容を分かりやすく紹介します。

日時：10月17日（土）・18日（日） 10:00～16:00

会場：宇治おうばくプラザ2階 ハイブリッドスペース

トークライブ

②

P6

日時：10月17日（土） 14:40～16:00

会場：宇治おうばくプラザ1階 ホワイエ

定員：30名（第一部、第二部とも先着）

第一部（講演）

司会 防災研究所 准教授 土井 一生

14:40～15:00 『化学で挑戦する未来材料』

化学研究所 助教 山内 光陽

15:05～15:25 『できることから始めよう 水辺の小さな自然再生』

防災研究所 教授 瀧 健太郎

第二部（トークライブ）

15:30～16:00 『研究現場の裏話～きいてみよう！科学者の「知りたい」のヒミツ』

登壇者：化学研究所 助教 山内 光陽

生存圏研究所 助教 富田 愛

防災研究所 准教授 伊藤 耕介

ファシリテーター：防災研究所 教授 伊藤 喜宏

部局講演会

エネルギー理工学研究所公開講演会

③

P7

日時：10月18日（日） 14:00～16:00

会場：宇治おうばくプラザ1階 きはだホール

工学研究科附属量子理工学教育研究センター公開シンポジウム

P8

日時：10月16日（金） 10:00～16:00

会場：総合研究実験棟1号棟4階 遠隔会議室 HW401号室

公開ラボ

P2・3

宇治キャンパス会場

P9～16

日時：10月17日（土）・18日（日） 10:00～16:00

※各ラボの公開時間はプログラムP2～3でご確認ください。

宇治川オープンラボラトリー会場 ※事前予約者のみ見学可

P17・18

日時：10月17日（土） 10:00～16:00

※宇治キャンパスからシャトルバスあり（事前予約制）

※中書島駅からの送迎バスは、運行していません。

宇治キャンパス会場
限定！

スタンプラリーで記念品をゲット！

A～Dの4か所すべてでスタンプを押した用紙を受付までお持ちください。

記念品を差し上げます。

スタンプラリー用紙は受付で配布しています。



【写真等撮影に関するお願い】

本イベント開催中、記録および広報活動を目的として、スタッフによる写真・動画撮影を行います。撮影した素材は、大学の広報活動（HP・SNS・印刷物等）に使用する場合がございます。あらかじめご了承くださいませよう願ひ申し上げます。

宇治キャンパス公開 2026 プログラム

●プログラム番号 ➡ 参照ページ

■ 期日前講演会

対象マーク 幼 幼児 小 小学生 中 中学生 高 高校生 般 一般

プログラム	対象	会 場	16 日 (金)	担当	➡
工学研究科附属量子理工学教育 研究センター第27回公開シンポジウム	高 般	総合研究実験棟1号棟4階 遠隔会議室HW401号室	10:00 ~ 16:00	工学	P.8

■ 総合展示・講演会

プログラム	対象	会場	17 日 (土)	18 日 (日)	担当	➡
① 総合展示	中高 般	宇治おうばくプラザ 2階 ハイブリッドスペース	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 16:00	共同	P.1
② トークライブ	小中高 般	宇治おうばくプラザ 1階 ホワイエ	14:40~16:00	————	共同	P.6
③ エネルギー理工学研究所公開講演会	中高 般	宇治おうばくプラザ 1階 きはだホール	————	14:00~16:00	エネ研	P.7

■ 公開ラボ(宇治キャンパス会場)

整 整理券配布 (詳細は ➡ 参照ページをご覧ください)

プログラム	対象	会場	17 日 (土)	18 日 (日)	所要時間	担当	➡
④ 素材に触れよう！ 森のねんどで家づくり： 森林×化学→未来	整 幼小中高 般 ※1	宇治おうばくプラザ 2階 ハイブリッドスペース	13:00 ~ 14:20、 14:40 ~ 16:00	13:00 ~ 14:20、 14:40 ~ 16:00	50～ 80分	化研	P.9
⑤ 放射線を見る	小中高 般	宇治おうばくプラザ 1階 セミナー室4	10:00 ~ 15:00	10:00 ~ 15:00	20分	工学	P.9
⑥ じしゃくであそぼう！	幼小中高 般	宇治おうばくプラザ 1階 セミナー室5	10:00 ~ 12:00、 13:00 ~ 16:00	13:00 ~ 16:00	15分	化研	P.9
⑦ 木の博物館 「材鑑調査室一般公開」	幼小中高 般 ※2	材鑑調査室 バーチャルフィールド	10:00 ~ 12:00、 13:00 ~ 16:00	10:00 ~ 12:00	20分	生存研	P.9
⑧ 樹木観察会「この木なんの木」	幼小中高 般 ※3	宇治キャンパス構内 (材鑑調査室前に集合)	————	13:00 ~ 14:00	60分	生存研	P.10・11
⑨ 来て・みて・感じて 水資源	幼小中高 般 ※4	本館E棟 1階 E114N号室	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 16:00	30分	防災研	P.12
⑩ 斜面災害研究の最先端： 地震時地すべり再現試験	小中高 般	本館E棟 1階 E107D号室	13:00 ~ 15:00	10:00 ~ 15:00	10分	防災研	P.12
⑪ 天気図を彩る	幼小中高 般 ※4	本館E棟 5階 E509D号室	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 16:00	20分	防災研	P.12
⑫ 電気で光る！カラフル発光実験	幼小中高 般 ※4	共同研究棟 3階 リフレッシュコーナー	13:00、14:00、 15:00	13:00、14:00、 15:00	20分	化研	P.12
⑬ 遺伝暗号をときあかせ！	整 小中高 般 ※1	本館N棟 5階 N571E号室	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 12:30	40分	エネ研	P.13
⑭ レゴで学ぼう未来のエネルギー	幼小中高 般 ※1	本館W棟 5階 W501号室	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 12:00	20分	エネ研	P.13
⑮ 触媒モデルを組み立ててみよう	整 幼小中高 般 ※4	本館N棟 2階 N273E号室	10:00、11:00、 12:00、13:00、 14:00、15:00	10:00、11:00	45分	エネ研	P.13

プログラム	対象	会場	17日(土)	18日(日)	所要時間	担当	
16 人工宝石の作り方を学ぼう 整	小中高 4	本館M棟 5階 M567E号室	10:00、11:00、 12:00、13:00、 14:00、15:00	10:00、11:00、 12:00	50分	エネ研	P.13
17 VRで水害を仮想体験してみよう 整	小中高 4	本館S棟 5階 S519号室	10:00 ~ 16:00	————	5分	防災研	P.14
18 いろんな木を組み合わせて コースターを作ろう！ 整	幼小 4	居住圏劣化生物飼育棟 HP012	10:00 ~ 11:00、 11:30 ~ 12:30、 13:00 ~ 14:00、 14:30 ~ 15:30	10:00 ~ 11:00、 11:30 ~ 12:30、 13:00 ~ 14:00、 14:30 ~ 15:30	30分	生存研	P.14
19 木から作ったクルマ： ナノセルロース ヴィークル	幼小中高 4	総合研究実験1号棟 1階 エントランス	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 16:00	15分	生存研	P.14
20 タンパク質の構造を見る (タンパク質のX線結晶構造解析) 整	小中高 5	総合研究実験1号棟 4階 遠隔会議室HW401号室	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 16:00	60分	農学	P.14
21 宇宙と地球をつなぐ光 ～オーロラ～	幼小中高 4	総合研究実験1号棟 4階 HW407号室	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 16:00	20分	生存研	P.15
22 電子顕微鏡で原子を見よう	小中高 4	超高分解能分光型 電子顕微鏡棟1階	10:00 ~ 12:00 13:00 ~ 16:00	10:00 ~ 12:00 13:00 ~ 16:00	15分	化研	P.15
23 放射線で見える	小中高 4	放射実験室 1階	10:00、11:00、 13:00、14:00、 15:00	10:00、11:00、 13:00、14:00、 15:00	30分	工学	P.15
24 風を感じる	小中高 4	境界層風洞実験室	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 16:00	10分	防災研	P.15
25 断層を作ってみよう、 見てみよう	幼小中高 6	地震災害研究センター 研究棟 1階エントランス	10:00 ~ 16:00	————	20分	防災研	P.15
26 地震の揺れを体感してみよう	小中高 4	強震応答・耐震構造実験室	13:30、15:00	10:30、12:00、 14:00	30分	防災研	P.15
27 遠心力载荷装置を用いた 液化化地盤の公開実験	小中高 4	遠心力载荷実験室	10:00、11:30、 14:00、15:30	10:00、11:30、 14:00、15:30	25分	防災研	P.16
28 マイクロ波(電波)を使った 無線電力伝送の公開実験	小中高 4	高度マイクロ波 エネルギー伝送実験棟	10:00 ~ 16:00	————	30分	生存研	P.16
29 レーザー加工で キーホルダーを作ろう	幼小中高 4	レーザー科学棟	10:00 ~ 16:00	————	30分	化研	P.16
30 フュージョンエネルギーと プラズマサイエンス	小中高 7	北4号棟	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 16:00	20分	エネ研	P.16

※ 1 小学校低学年以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

※ 2 貴重な資料も保管されておりますので、小さなお子様には保護者の付き添いをお願いいたします。

※ 3 小雨決行。小雨の場合は雨具(カッパ、ポンチョみたいなもの、傘は×)を持参ください

※ 4 小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

※ 5 小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。整理券配付後、整理券が余った場合、来訪者で時間が合えば、その整理券を配付します。

※ 6 断層形成実験は、混雑時に参加制限あり。

※ 7 けがをしたり、物をこわしたりしないよう、かかりの人の言うことをよく聞いてくださいね！

■ 公開ラボ(宇治川オープンラボラトリー会場) 宇治キャンパスからシャトルバスあり(事前予約制)

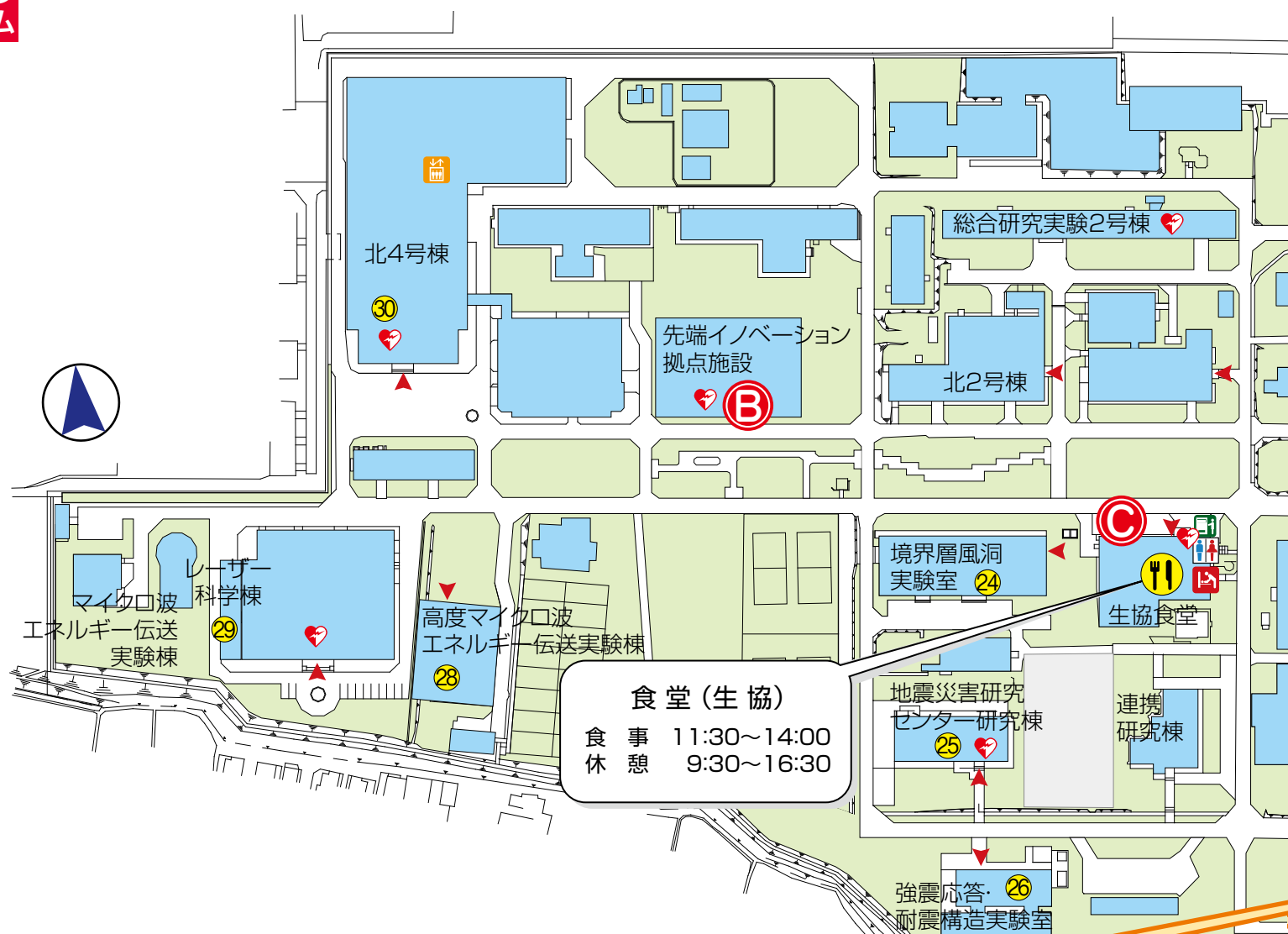
プログラム	対象	会場	17日(土)	18日(日)	担当	
災害を起こす自然現象を体験する	幼小中高 4	宇治川オープンラボラトリー	10:00~16:00	————	防災研	P.17・18

各プログラムは時間・体験人数に限りがあります。対象は各プログラムによって異なります。

化研：化学研究所 エネ研：エネルギー理工学研究所 生存研：生存圏研究所 防災研：防災研究所 農学：大学院農学研究科

工学：大学院工学研究科 共同：共同開催 事務局：宇治地区事務局

宇治キャンパス公開 2026 キャンパスマップ



1F

2F



セブン・イレブン
10月17日(土)・18日(日)は
営業時間 8:00~17:00

トークライブ 会場

宇治
おうばく
プラザ





- パンフレットとスタンプラリー用紙は受付で配布しています。
 - スタンプラリーの記念品交換も受付で行っています。A～Dの4か所すべてのスタンプを集めて、受付までお越しください。
- なお、記念品は数に限りがあるため、なくなり次第変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

- プログラム番号
- 参照ページ
- ▲ 主な出入口
- ♂ ♀ トイレ ※お近くのスタッフにおたずねください
- ♥ 自動体外式除細動器(AED)
- 🚪 エレベーター
- 🍼 授乳室
- 🚻 おむつ替えシート付トイレ
- 📄 自動販売機
- スタンプラリーのチェックポイント (全て屋外にあります)

トークライブ ②

- 日 時：10月17日（土）14:40～16:00
- 会 場：宇治おうばくプラザ1階 ホワイエ
- 定 員：30名（第一部、第二部とも先着）

■ プログラム

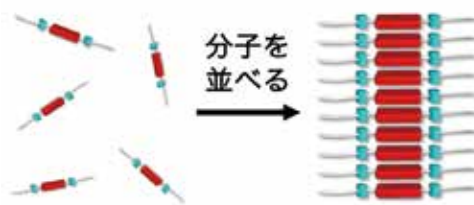
【第一部（講演）】

司会 防災研究所 准教授 土井 一生

14:40～15:00 『化学で挑戦する未来材料』

化学研究所 助教 山内 光陽

要 旨：科学技術の発展により、私たちの生活は日々豊かになっています。その未来を支えているのが「化学」の力です。本講演では、有機合成（分子をつなぐ）・超分子化学（並べる）・光化学（光を当てる）といった手法を駆使し、革新的な未来材料がどのように生み出されるのかを紹介します。教科書には載っていない「研究のリアル（発見の裏側）」を交えながら、わかりやすく解説します。



— 5分休憩 —

15:05～15:25 『できることから始めよう 水辺の小さな自然再生』

防災研究所 教授 瀧 健太郎

要 旨：生き物が賑わう健全な流域は、さまざまな形で「自然の恵み」を私たちに届け、暮らしを支えてくれます。「自然の恵み」を生み出す生態系を保全することは持続可能な未来のための防災なのです。「できることから始めよう」という呼びかけから、全国各地で水辺の小さな自然再生が広がってきました。全国のわくわくする事例を紹介しながら、身近な水辺で生き物たちのにぎわいを増やす技をみなさんにこっそり教えます。



— 5分休憩 —

【第二部（トークライブ）】

15:30～16:00 『研究現場の裏話～きいてみよう！科学者の「知りたい」のヒミツ』

登壇者：化学研究所 助教 山内 光陽

生存圏研究所 助教 富田 愛

防災研究所 准教授 伊藤 耕介

ファシリテーター：防災研究所 教授 伊藤 喜宏



エネルギー理工学研究所公開講演会 ③

- 日 時：10月18日（日）14:00～16:00
- 会 場：宇治おうばくプラザ 1階 きはだホール
- 定 員：300名

■ プログラム

14:00～14:10 開会挨拶

所長 片平 正人

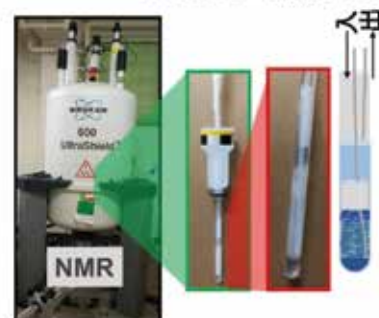
14:10～15:00 「研究テーマの偶然と必然

ーバイオマス研究とライフサイエンス研究の交差点よりー」

教授 片平 正人

講演要旨：何を研究すべきなのか？研究成果を挙げるのは難しいものですが、それより難しいのは何を研究するのかを決めることだと感じます。私の研究室では、バイオマス研究とライフサイエンス研究の二つを進行させています。前者においては、木本・草本系バイオマスから、酵素の力を活用することでバイオエネルギーや高付加価値物質を獲得することを行っています。また後者においては、病気の原因あるいは防御に関係したタンパク質や核酸の機能発現機構を解明することを行っています。これらの研究を行うようになったのには、偶然と必然の両方が寄与しています。これら二つの研究項目に関する成果とともに、どのように研究テーマが決まってきたのかもお話します。聴衆の方々の進路選択の一助となれば幸いです。

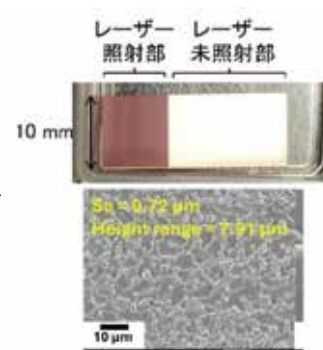
ヒト生細胞のNMRスペクトルを
生きたまま測定する装置



15:00～15:50 「レーザーとエネルギー科学 ーレーザーを使って何ができるのかー」

准教授 中嶋 隆

講演要旨：レーザーと聞いて、何を思い浮かべますか？新しいイメージ、それとも古臭いイメージでしょうか。実は、レーザーが発明されたのは、1960年、つまり、66年も前で、今となっては、基礎から応用、さらには実用まで、実に様々な場面で使われています。この講演では、レーザーの動作原理を簡単に紹介した後、我々がレーザーをエネルギー科学にどう生かしているのかについて、最近の研究成果を紹介します。右の写真は、わずか数10秒のレーザー照射によってエネルギー貯蔵等に役立つ電極を作製した例です。



15:50 閉会挨拶

副所長 野平 俊之

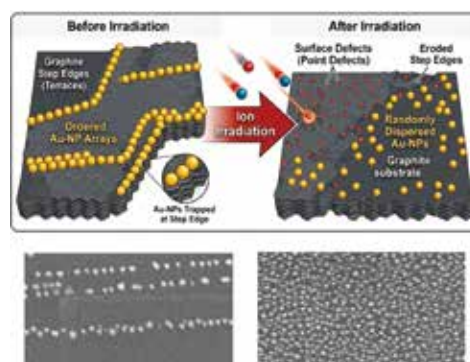
- 日 時：10月16日（金）10:00～16:00
- 会 場：総合研究実験棟1号棟4階 遠隔会議室 HW401 号室
- 定 員：50名 ■ 参加料：無料

■ プログラム

10:10～11:00 「金ナノ粒子配列で見るグラファイト表面のイオン照射誘起欠陥： ステップエッジ消失と点欠陥のランダム生成」

京都工芸繊維大学 材料化学系 教授 高廣 克己

講演要旨：イオン照射による構造変化や点欠陥の生成プロセスの解明は、材料の微細加工や耐放射線特性の理解において極めて重要である。しかし、照射によってランダムに導入される原子レベルの点欠陥や、それに伴うステップエッジ等の微細構造の消失挙動を、空間的な広がりをもって直接かつ明瞭に評価することは容易ではない。単結晶グラファイトに金を蒸着すると、表面欠陥であるステップエッジに沿って金ナノ粒子が直線状に配列する。一方、イオン照射したグラファイト表面上には、金ナノ粒子がランダムに配列する。その配列から、イオン照射によりステップエッジが消失し、点欠陥がランダムに生成したことが分かる。



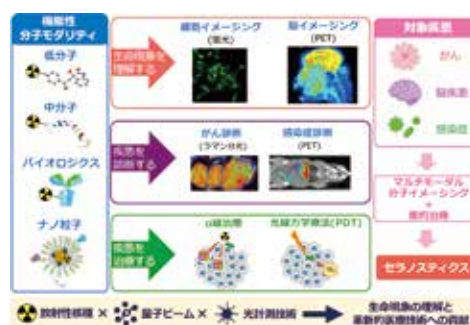
金ナノ粒子をインジケータとした「表面欠陥の可視化」コンセプト（上）と非照射・照射領域のSEM像（下）

11:00～11:50 「疾患特異的セラノスティクス技術の開発と次世代核医工学への展開」

京都大学 工学研究科 原子核工学専攻 教授 淵上 剛志

講演要旨：生体内の分子・細胞機能を可視化し、診断と治療を一体化するセラノスティクスは、次世代精密医療を支える重要な基盤技術として期待されている。演者はこれまで、放射線・光技術を基盤として、がん、脳疾患、感染症を対象とした疾患特異的分子プローブの開発とその診断・治療応用を進めてきた。

本講演では、これまでの研究成果を概説するとともに、放射性核種、量子ビーム、光計測技術を融合する次世代核医工学（量子核医工学）の可能性と、粒子線・電磁波を活用した生命現象の解明および革新的医療技術への展開について議論する。



13:10～14:00 放射実験室ユーザー成果発表（2件）

14:10～16:00 ショートプレゼンテーション&ポスター発表会

公開ラボ (宇治キャンパス会場)

4 素材に触れよう! 森のねんどで家づくり:

整

森林×化学→未来

(土) 10:00~16:00

(日) 10:00~16:00

森のねんど体験: 各日 13:00~14:20、14:40~16:00

整理券: 各日 11:30~会場にて先着配布(各回5組)

宇治おうばくプラザ2階 ハイブリッドスペース

幼小中高

小学校低学年以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

吉野杉の端材からできた木粉でできる「森のねんど」のおうちに、様々な素材で飾り付けをしましょう。ねんど作家みちやすさんの作品展示や「化学」で日本の7割を占める「森」の未来をひらく研究紹介もあります。



みちやすさんのHPはこちら



5 放射線を見る

(土) 10:00~15:00

(日) 10:00~15:00

最大3組、合計8名以下

宇治おうばくプラザ1階 セミナー室4

小中高

大昔から自然界を飛び回っている目には見えない「放射線」をいろいろな機械で計ってみよう! 霧箱を使えば、放射線のとんだ後を目で見ることできるよ!



6 じしゃくであそぼう!

(土) 10:00~12:00、13:00~16:00

(日) 13:00~16:00

宇治おうばくプラザ1階 セミナー室5

幼小中高

私たちの日常生活で磁石がどのように役立っているかを易しく楽しく説明します。内容は、

- ・強力磁石を体験!
- ・磁性流体で遊ぼう!
- ・モーターを回そう!
- ・浮遊ゴマに挑戦!

など。小さなお子さんでも楽しめるような触って遊べるようなデモを行います。



7 木の博物館「材鑑調査室一般公開」

(土) 10:00~12:00、13:00~16:00

(日) 10:00~12:00

材鑑調査室 バーチャルフィールド

幼小中高

貴重な資料も保管されておりますので、小さなお子様には保護者の付き添いをお願いいたします。

古の時代から人間にとって最もなじみの深い材料“木材”。京都大学材鑑調査室は、歴史的建造物に使われていた古材をはじめとした、学術的にも文化的にも貴重な木材標本を所蔵している博物館です。この機会に、ぜひご覧ください。



⑧ 樹木観察会「この木なんの木」

(日) 13:00～14:00

幼小中高

13:00までに材鑑調査室前に集合。

配布資料あり 小雨決行

(小雨の場合雨具(カッパ、ポンチョみたいなもの、傘は×)をご持参下さい)

宇治キャンパス内の樹木を見て回り、葉っぱや樹皮で見分ける方法を解説しながら、木材としての利用についても紹介します。

公開ラボ

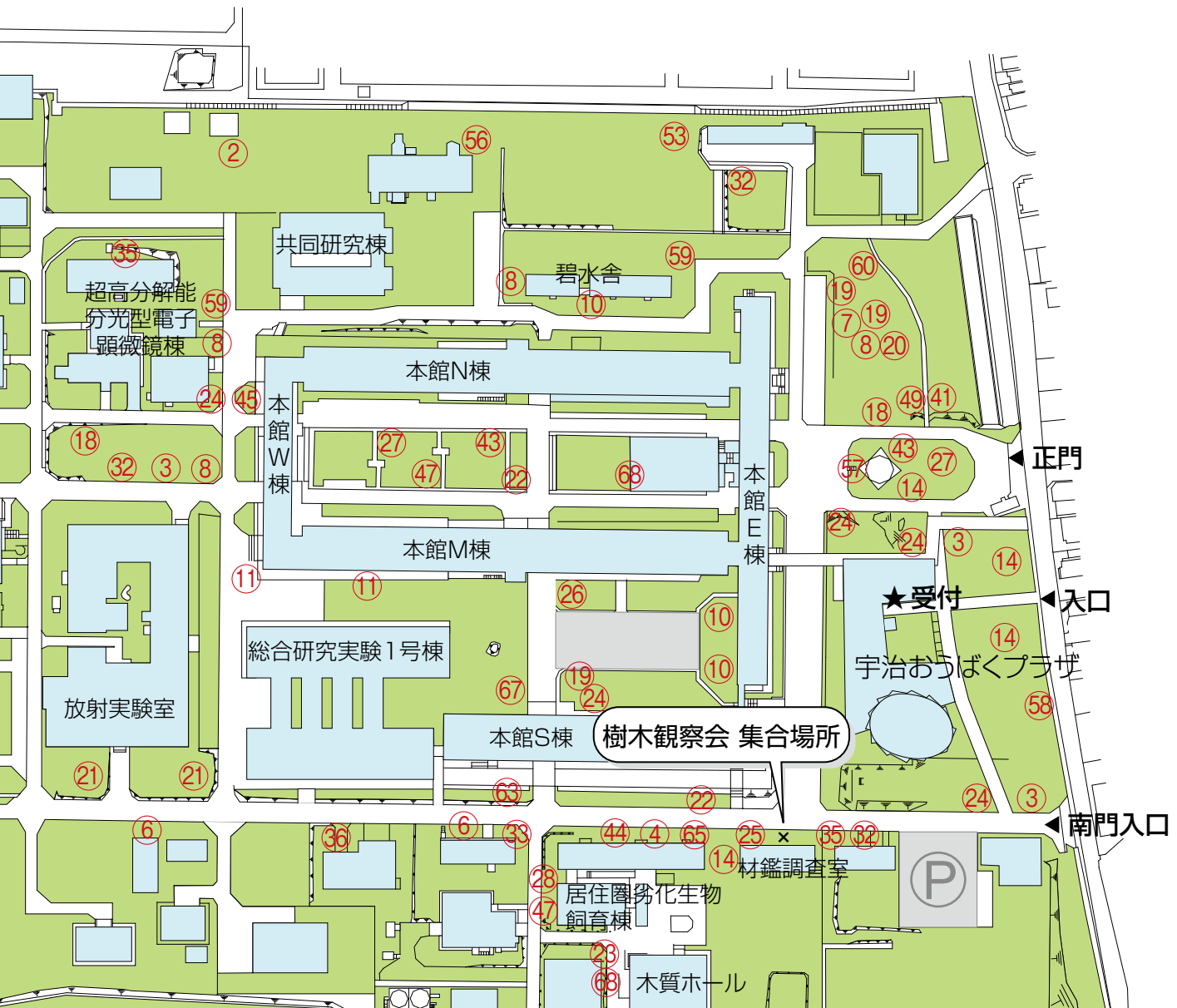


キャンパス内には樹木のプレートを設置し、和名、英名、学名、主な用途が記載しているものがあります。構内を散策がてらご覧下さい。

① アオギリ	①⑦ キリ	③⑤ センダン	⑤⑦ マサキ
② アキニレ	①⑧ キンモクセイ	③⑥ ソテツ	⑤⑧ マルバヤナギ
③ アラカシ	①⑨ クスノキ	③⑦ タブノキ	⑤⑨ ムクノキ
④ アラスカヒノキ	②⑩ クヌギ	③⑧ トウカエデ	⑤⑩ メタセコイヤ
⑤ イチョウ	②⑪ クリ	③⑨ ナナミノキ	⑤⑪ モチノキ
⑥ イロハモミジ	②⑫ クロマツ	③⑩ ナワシログミ	⑤⑫ モミ
⑦ ウバメガシ	②⑬ ゲッケイジュ	③⑪ ヌマスギ	⑤⑬ ヤマグワ
⑧ エノキ	②⑭ ケヤキ	③⑫ ヌルデ	⑤⑭ ヤマハゼ
⑨ エンジュ	②⑮ コムラサキ	③⑬ ネズミモチ	⑤⑮ ヤマモモ
⑩ オオカナメモチ	②⑯ サングジュ	③⑭ ネムノキ	⑤⑯ ユリノキ
⑪ カイズカイブキ	②⑰ シダレザクラ	③⑮ ハナミズキ	
⑫ カツラ	②⑱ 常緑ヤマボウシ	③⑯ ハリエンジュ	
⑬ カンレンボク	③⑰ シャシャンボ	⑤③ ビワ	
⑭ キハダ	③⑲ スギ	⑤⑤ ホソイトスギ	
⑯ キョウチクトウ	③⑲ ツブラジイ	⑤⑥ ポプラ	

キャンパス樹木散策マップ (2026 年度版)

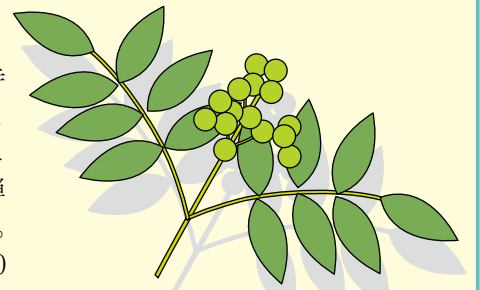
公開ラボ



「きはだ」のお話

中国の福建省、キハダ(黄檗)の木が生い茂る黄檗山に萬福寺というお寺がありました。そこにおられたのが隠元禅師。明から清王朝への変遷にともなって衰退する萬福寺の状況と、禅宗の立て直しにと禅師を日本に招こうという徳川家の思惑とが奏して、禅師の来日が実現します。1658年、禅師は4代将軍家綱にまみえ、その翌年日本黄檗宗の開宗を許可されました。現在の場所に本家中国と名前も同じ、黄檗山萬福寺が完成するのは1680年代のことです。黄檗山萬福寺はあつい加護を受けた徳川の家紋を寺紋としますが、門などは典型的な中国式ですし、また南洋から輸入したチークを使った京都でもユニークなお寺です。

さて黄檗とは 学名: *Phellodendron amurense* (アムール産のコルクの木)、和名キハダ、樹高約25メートル、樹幹直径約1メートルに達するミカン科の落葉高木です。剥離直後の内皮が鮮やかな黄色を呈することからこの名がつけました。内皮にはベルベリンや少量のパルマチンというアルカロイドを含んでいて大層苦く、古来より健胃、利尿の有名な漢方薬です。350年の歴史のロマンをかき立てるご当地の樹。萬福寺境内や、宇治キャンパスに6本植栽されています。



京都大学名誉教授 杉山 淳 司

⑨ 来て・みて・感じて 水資源

(土) 10:00~16:00

(日) 10:00~16:00

本館E棟1階 E114N号室

幼小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

体験できるプログラム(※日によって内容が変わります)
【土曜限定】3D 疑似体験 / ダム模型実験 / 利き水
【日曜限定】河川水温の変化実験 / 将来気候映像の視聴

【両日開催】河川地形の模型実験

模型実験や体験型のプログラムを通して、水資源を楽しく感じることができます。



川の模型



水中のVR画像



空中のVR画像

⑩ 斜面災害研究の最先端：地震時地すべり再現試験

(土) 13:00~15:00

(日) 10:00~15:00

本館E棟1階 E107D号室

小中高

地震による地すべりがどのように発生するのかを調べる実験装置を紹介し、実験の実演をおこなう他、近年の斜面災害に関する映像や写真などを展示します。



⑪ 天気図を彩る

(土) 10:00~16:00

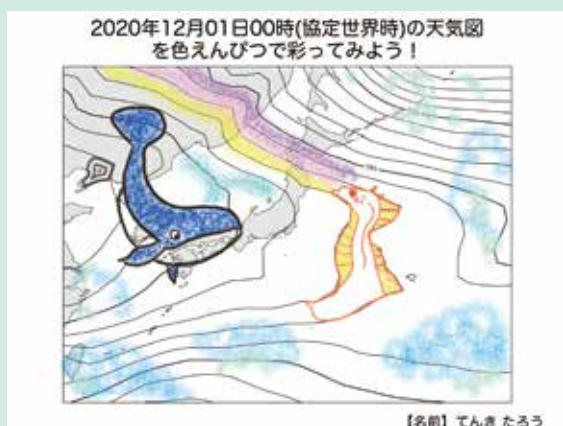
(日) 10:00~16:00

本館E棟5階 E509D号室

幼小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

誕生日や思い出の日はどんなお天気だったのでしょうか。色鉛筆で天気図に思い出を彩ってみませんか。災害気候研究分野で研究に利用している過去の気象データから「あの日」を蘇らせます。



【名前】でんき たるう

⑫ 電気で光る! カラフル発光実験

(土) 13:00、14:00、15:00

(日) 13:00、14:00、15:00

共同研究棟 3階リフレッシュコーナー

幼小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

有機 EL(ゆうきいーえる) は、スマートフォンやゲーム機、テレビなどに使われている最新の“光る分子”を使った技術です。そんな光る分子と一緒に、カラフルに光らせよう!



⑬ 遺伝暗号をとときあかせ！

整

本館N棟5階 N571E号室

実験には現地で配布する整理券が必要です。(1回20人)

※所要時間40分

(土)10:00～16:00

[実験(要整理券)]

1回目10:15～, 2回目11:45～, 3回目13:30～, 4回目15:00～

(日) 10:00～12:30

[実験(要整理券)]

1回目10:15～, 2回目11:45～

[整理券]会場配布

[整理券配布時間]

(土)10:00 (1,2回目用), 13:00 (3,4回目用)

(日)10:00 (1,2回目用)

小中高

小学校低学年以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

生き物の体の中には、「DNA(ディーエヌエー)」という生き物の設計図があります。遺伝暗号(いでんあんごう)というルールで書かれたこの設計図を読みとこう! 遺伝暗号クイズとビーズストラップ作成に挑戦します。

遺伝暗号クイズ、ビーズストラップ作成(要整理券)、展示品見学(整理券不要)



⑭ レゴで学ぼう未来のエネルギー

(土)10:00～16:00

(日)10:00～12:00

1回5人程度

本館W棟5階 W501号室

幼小中高

小学生低学年以下のお子様は保護者同伴をお願いします。



LEGOで核融合や水素エネルギーといった未来のエネルギーを学べます。核融合ってどんな装置でするんだろう、水素ってどうやって作るんだろう、LEGOでの工作や展示を交えて子供さんから大人まで学んでいただけます。



⑮ 触媒モデルを組み立ててみよう

整

(土)10:00、11:00、12:00、13:00、14:00、15:00

(日)10:00、11:00

整理券の配布は両日とも9:45～(1回6人)

本館N棟2階 N273E号室

幼小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

小さな原子の模型を組み立てて、触媒の形を見てみよう。原子の並び方が変わると、化学反応の進み方も変わることを、楽しく学べます。



⑯ 人工宝石の作り方を学ぼう

整

(土)午前の部 10:00、11:00、12:00

午後の部 13:00、14:00、15:00

(日)10:00、11:00、12:00

会場で整理券を配布します。(各回6組)

(土)午前の部 10:00、午後の部 13:00

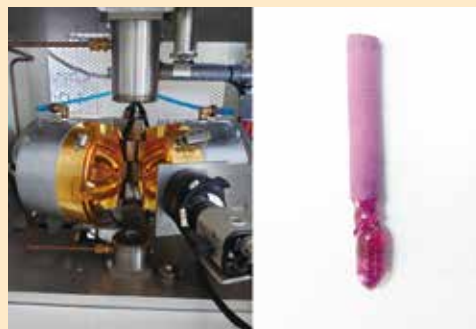
(日)10:00

本館M棟5階 M567E号室

小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

ルビーやサファイヤといった宝石は人工で作れると知っていますか? 原料を固めて溶かして人工宝石ができる様子を見学してみよう! 見学の後は、人工宝石の加工体験をしていただきます。



⑪ VR で水害を仮想体験してみよう

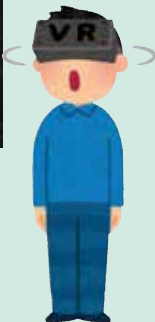
(土) 10:00~16:00

整理券配布: 午前の部 10:00、午後の部 13:00
60人(上限10人/時間)

本館S棟5階 S519号室

小中高

河川氾濫や高潮氾濫を VR (仮想現実) で体験してみませんか。水害の怖さがピンとこないことも多いと思います。目の前に迫ってくる水の迫力を没入感たっぷりに体感してみましょう。



⑫ いろんな木を組み合わせてコースターを作ろう!

(土) 10:00~11:00、11:30~12:30、
13:00~14:00、14:30~15:30

(日) 10:00~11:00、11:30~12:30、
13:00~14:00、14:30~15:30

整理券配布: 【午前の部】9:45~ 配布開始(2コマ分)
【午後の部】12:00~ 配布開始(2コマ分)

※1コマ合計10組まで。1組につき原則4人(コースターは1組につき原則3個まで)までのご参加とさせていただきます。

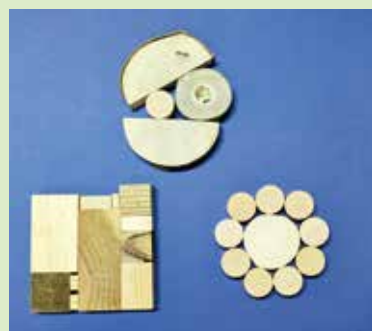
居住圏劣化生物飼育棟 HP012

幼小

一高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

色や形がちがう木や虫たちが食べた後の木を組み合わせて、自分だけのコースターを作ってみませんか?



組木コースター

⑬ 木から作ったクルマ： ナノセルロース ヴィークル

(土) 10:00~16:00

(日) 10:00~16:00

総合研究実験 1号棟1階 エントランス

幼小中高

木から取り出したセルロースナノファイバーで作った材料をドアやボンネット、サンルーフなどに使ったスポーツカーを展示しています。



⑭ タンパク質の構造を見る (タンパク質の X 線結晶構造解析)

(土) 10:00~16:00

(日) 10:00~16:00

整理券1枚で1組(5人以内) 10分刻みで入場し、公開ラボ全体で60分で退出

午前の部(10:00~12:00) 整理券配布: 10:00~10:30

午後の部(13:00~16:00) 整理券配布: 13:00~13:30

総合研究実験1号棟4階 遠隔会議室HW401号室

小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

整理券配付後、整理券が余った場合、来訪者で時間が合えば、その整理券を配付します。

タンパク質の結晶化を体験し、結晶を使った X 線構造解析の原理をわかりやすく紹介します。また、決定したタンパク質の構造(かたち)とはたらきを模型や 3D 映像を用いて詳しく説明します。



②1 宇宙と地球をつなぐ光 ～オーロラ～

(土) 10:00～16:00

(日) 10:00～16:00

総合研究実験1号棟4階 HW407号室

幼小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

ボールを投げるとオーロラが光るゲーム、プラズマ・ボール、ネオン管、写真展示などを体験し、クイズの答えを探しながら、オーロラと地球周辺の宇宙空間を楽しく学びます。



②2 電子顕微鏡で原子を見よう

(土) 10:00～12:00、13:00～16:00

(日) 10:00～12:00、13:00～16:00

超高分解能分光型電子顕微鏡棟1階

小中高

電子顕微鏡は「光」のかわりに「電子」を使った顕微鏡で、光を使った光学顕微鏡よりもずっと小さな物を見ることができます。この公開ラボでは電子顕微鏡を使って原子を見る実演を行います。



②3 放射線で見ると

(土) 10:00、11:00、13:00、14:00、15:00

(日) 10:00、11:00、13:00、14:00、15:00

1回20人

放射実験室1階

小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

最先端の研究に使っている加速器からのイオンビームを用いて、コインなど身近なものがどんな元素でできているかを分析します。また、イオンビームが気体中を飛ぶ様子を肉眼で見る実験を行います。



加速器からのイオンビーム
輝く白い線がイオンビームです。

②4 風を感じる

(土) 10:00～16:00

(日) 10:00～16:00

境界層風洞実験室

小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

境界層風洞で風速10m/sの風を体験していただきます。普段は目に見えない風の力を全身で感じながら、強風が私たちの暮らしに与える影響や風がもたらす自然現象への理解を深めてみませんか？



②5 断層を作ってみよう、見てみよう

(土) 10:00～16:00

地震災害研究センター研究棟1階 エントランス

幼小中高

断層形成実験は、混雑時に参加制限あり。

子供は、小麦粉とココアを用いた断層形成実験を通して、断層がどのようにできるのかを学びます。大人は、立体視による地形の観察や本センターの研究紹介を通じて、地震と断層について理解を深めていただけます。



②6 地震の揺れを体感してみよう

(土) 13:30、15:00

(日) 10:30、12:00、14:00

各回先着20名

強震応答・耐震構造実験室

小中高

振動台という地震の揺れを再現する装置を使って、実際の地震の揺れがどういうものか、そして、それによってどういう現象が起こるのかを間近で見てもらい、体感していただきます。



②⑦ 遠心力载荷装置を用いた液状化地盤の公開実験

(土) 10:00、11:30、14:00、15:30

(日) 10:00、11:30、14:00、15:30

遠心力载荷実験室

小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

近年、都市域での大地震に伴い、液状化といった地盤災害が発生しています。私たちの足元の地盤が大地震の際にどのような振る舞いを見せるのか、遠心力载荷装置を用いた模型実験を通して学びましょう。



遠心力载荷装置



マンホール被害

②⑧ マイクロ波（電波）を使った無線電力伝送の公開実験

(土) 10:00～16:00

高度マイクロ波エネルギー伝送実験棟

小中高

電気は電線を繋がなくても送ることができます。最近のスマートフォンもワイヤレスで充電ができるようになりました。ここではマイクロ波という電波を使った無線電力伝送（ワイヤレス給電）について紹介します。



②⑨ レーザー加工でキーホルダーを作ろう

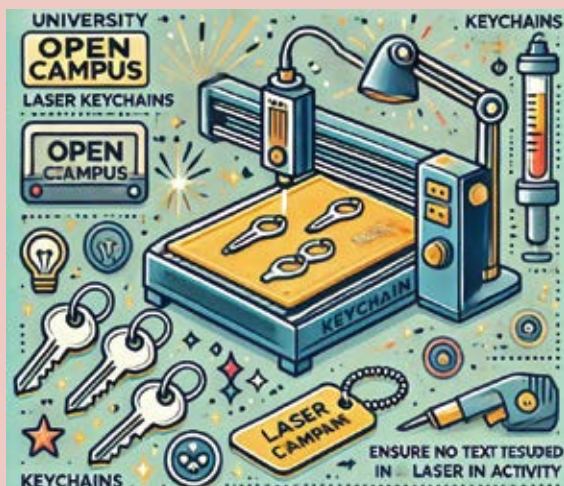
(土) 10:00～16:00

レーザー科学棟

幼小中高

小学生以下のお子様は保護者同伴をお願いします。

レーザーを使って金属板に手書きの文字や図形をマーキングします。



③⑩ フュージョンエネルギーとプラズマサイエンス

(土) 10:00～16:00

(日) 10:00～16:00

北4号棟

小中高

けがをしたり、物をこわしたりしないよう、
かかりの人の言うことをよく聞いてくださいね！

京都大学で考案されたプラズマ閉じ込め装置「ヘリオトロンJ」を見学し、人類の夢、フュージョンエネルギー（核融合発電）の実現に向けた研究を紹介します。また、プラズマ・光・真空などの実験を通して科学することの魅力を体験しましょう！

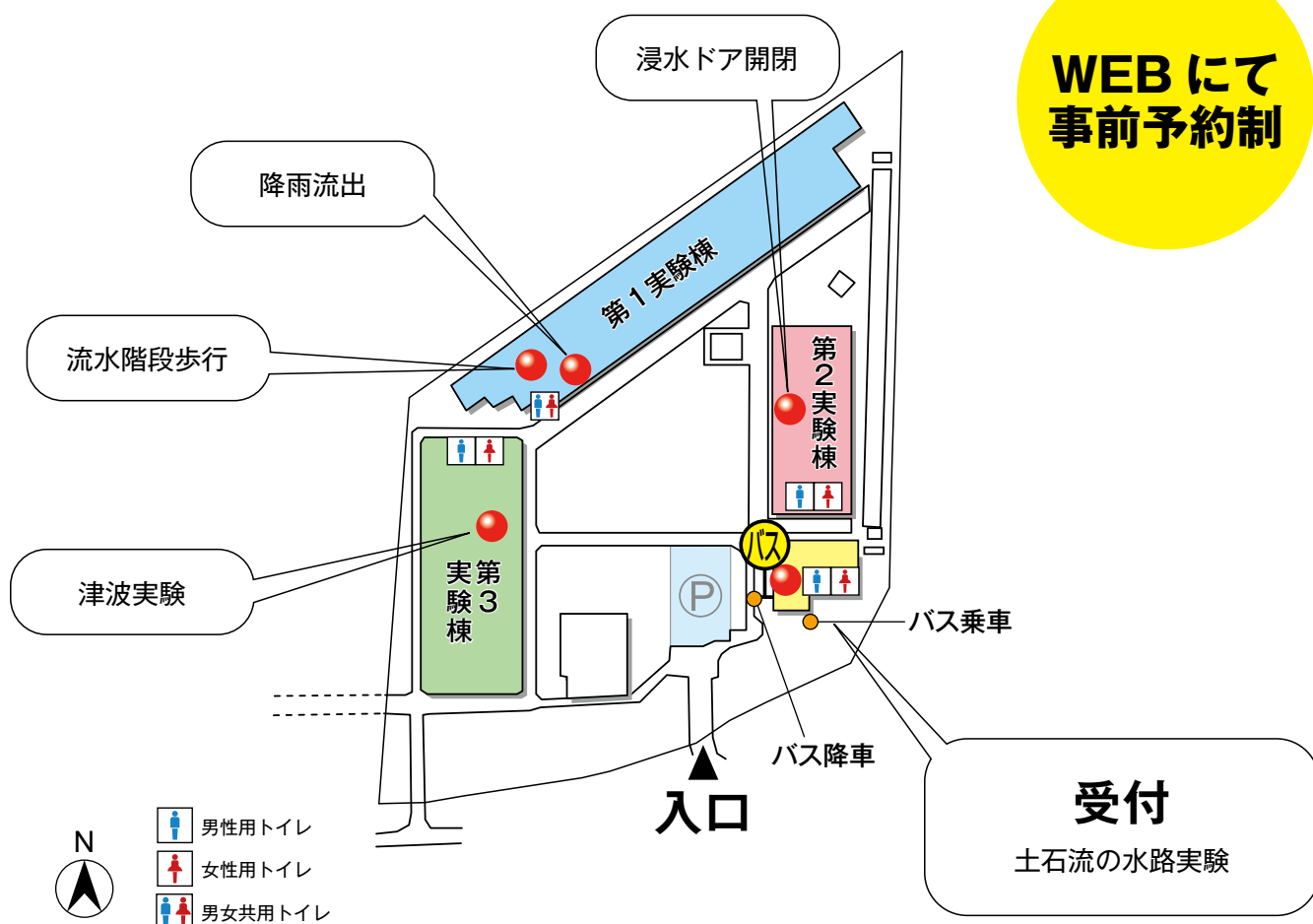


公開ラボ (宇治川オープンラボラトリー会場)

宇治キャンパスからシャトルバスあり(事前予約制)※中書島駅からの送迎バスは用意しておりません。

**WEBにて
事前予約制**

公開
ラボ



注意事項

1. 事前予約制のため、当日お越しになってもご見学いただけません。
2. 宇治川ラボラトリー付近には飲み物の自販機はありますが、飲食店などはありません。
3. 宇治川オープンラボラトリーの公開ラボではスタンプラリーを開催しておりません。

事前予約については、<http://rcfcd.dpri.kyoto-u.ac.jp/openlab/> をご参照ください。

災害を起こす自然現象を体験する

(土) 10:00~16:00

幼小中高 全

事前予約制で、流水階段歩行、降雨流出、浸水ドアの開閉、土石流の水路実験、津波実験を見学体験いただきます。

※流水階段歩行、浸水ドアの開閉は、幼児は対象外とさせていただきます。



土石流の水路実験

本館

幼小中高

「土石流の勢いはどう変わる？」土石流が発生するメカニズムを、角度を変えられる実験水路を使い、詳しく解き明かします。水路の傾きによって、砂と水が混ざり合う土石流の早さや勢いはどう変化するか、その違いを観察しましょう。また、山を守る砂防ダムを模型を設置して、どのように土石流の被害を抑えるのか、その仕組みを目の前で実演します。



流水階段歩行

第1実験棟

小中高

「建物の地下に水が流れ込んだら？」高さ 3m の実物大の階段の模型で、水が流れ込む地下街から避難できるかどうか体験できます。水の力は思っているよりも強く、階段を上るのはかなり難しいです。※身長 130cm 以上の方のみ



降雨流出

第1実験棟

幼小中高

「大雨が降ったら？」1 時間に 200 ミリの超豪雨を体験することができます。琵琶湖に流れ込む川を再現した大型の立体模型の上に立って、降った雨が下流へと流れる様子を見ることができます。



浸水ドア開閉

第2実験棟

小中高

「ドアの向こうに水がたまったら？」ドアの外に水がたまると開けられなくなることを確かめる浸水体験実験装置でどれくらいの深さまで開けられるのか体験できます。深さ30センチほどの水でも、子どもの力ではドアを開けるのは大変です。



津波実験

第3実験棟

幼小中高

地震と津波の危険性が毎日のように報道されています。津波の来襲の様子を観察しながら、その危険性とその対策を考えてみてください。



化学の学理と応用を究める

化学研究所は、「化学に関する特殊事項の学理および応用の研究を掌る」目的で1926年に本学で最初に設置された研究所で、2026年に創立100周年を迎えます。「研究の自由」を旨とし、化学全般で先駆的・先端的研究を推進しつつ、物理学、生物学、情報学へも分野を拡げ、多くの優れた成果を挙げてきました。現在、専任教員約80名、留学生を含む大学院生約230名、研究員約70名からなる30研究領域(研究室)が、物質創製化学、材料機能化学、生体機能化学、環境物質化学、複合基盤化学の5研究系と先端ビームナノ科学、元素科学国際研究、バイオインフォマティクスの3附属センターを構成し、客員研究領域も設けて、各研究領域が特色ある研究展開と相互連携での新分野開拓にも努めています。理、工、農、薬、医、情報の本学大学院6研究科11専攻にわたる協力講座として、高度な専門性と広い視野を備えた先端的な研究者の育成にも注力しています。また、文部科学大臣認定の「国際共同利用・共同研究拠点」として国内外の研究者との連携・協働も図っています。



30 研究領域からなる 5 研究系・3 附属センター体制をとっています

研究系

物質創製化学研究系

新しい有機および無機化合物、またその境界領域にある新物質を新しい合成法で創りだし、それらの独特の構造と性質ならびに利用法について研究しています。

材料機能化学研究系

材料科学の分野で益々重要となりつつある「機能」に焦点を当て、化学の立場から基礎的研究を推進し高機能材料の創製を目指しています。原子さらにナノレベルでのハイブリッド化による新たな機能の創出が最近のトピックスです。

生体機能化学研究系

生体を維持している重要な化合物の同定、高次生命現象の制御に関わる分子基盤の解明、生体分子の機能を創造する化合物の開発などを通して、生体・組織・細胞を化学的・生化学的に理解するために幅広い研究を行っています。

環境物質化学研究系

生命の源である水と水圏環境および分子水と環境や微生物・酵素が作る環境調和物質を、分子から地球環境までの視点で、化学の切口から総合的に研究しています。

複合基盤化学研究系

化学を基盤とする自然科学の学際・融合的な視点から、天然・人工物質の様々な現象を分子レベルでとらえる基礎研究を、他の研究系・センターとも連携し新たな物質科学の創造に向けてより複合的に推進しています。

附属センター

先端ビームナノ科学センター

イオンビーム、レーザービーム、電子ビーム、X線を用いた原子・電子レベルから生物に至る広範な基礎科学の研究と共にビームの高品位化、ビームの他分野への応用とビームの融合による学際研究の展開を目指しています。

元素科学国際研究センター

元素の特性を活かした有機・無機構造体の創製と機能開発に関する研究を行っています。

バイオインフォマティクスセンター

生命科学・医科学・化学から生まれる大規模データと知識を統合するデータベース環境を整備し、高次生命現象に関する知識と仮説を複雑なデータから効率的に発見するためのデータマイニング技術・アルゴリズムの開発を行っています。

京都大学化学研究所 創立100周年記念特別展

「京都の化学 化研の歴史」

会 期：2026年10月7日(水)

～11月29日(日)

開館時間：9:30～16:30

入 館 料：一般400円/大学生300円/
小・中・高校生無料



研究所ウェブサイト





エネルギー理工学研究所

Institute of Advanced Energy

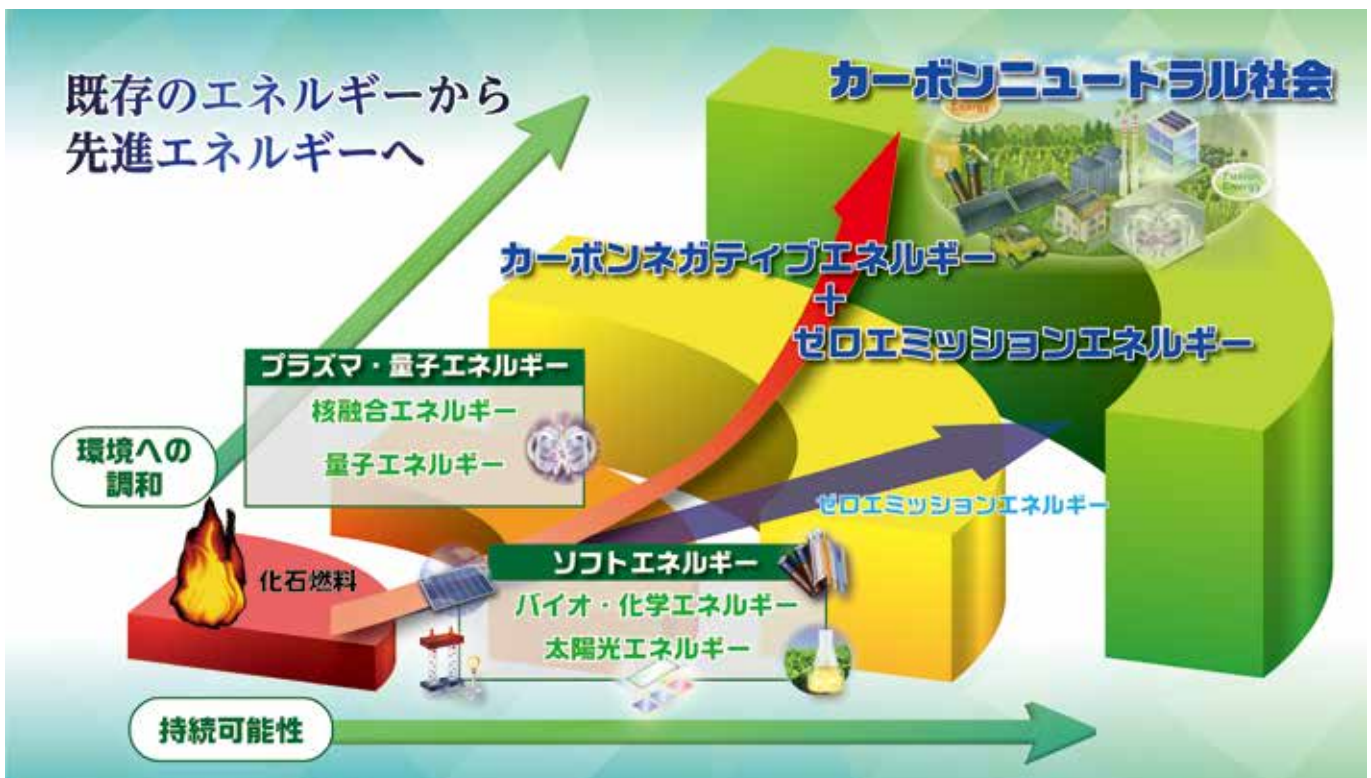
カーボンニュートラル社会を支えるエネルギー融合科学の構築を目指して

エネルギー理工学研究所は、1996年にエネルギーの基本要素であるエネルギーの生成・変換・利用の高度化に関する研究を行うために設立されました。エネルギーの散逸や有用物質の損失、有害物質の放出を最小限に抑え、高い環境調和性と社会受容性を持つ安全性に優れた、ソフトエネルギーからプラズマ・量子エネルギーまでの幅広いエネルギーを開発・研究することを目的にしています。このようなエネルギーを「ゼロエミッションエネルギー」と位置付け、共同利用・共同研究拠点事業「ゼロエミッションエネルギー研究拠点」の活動を展開しています。

研究所には、生成・変換・利用をそれぞれ冠した3部門に属する14研究分野、研究所内外の共同研究や産官学連携を推進する附属エネルギー複合機構研究センターと、二酸化炭素を機能性材料に変換する附属カーボンネガティブ・エネルギー研究センターを設置して、特色ある最先端の研究施設を活用しながら、多彩なエネルギーに関わる先端研究に取り組んでいます。カーボンニュートラル社会を支えるエネルギーを、自然の摂理や原理に立ち返って探究し、新しいエネルギーの創出と学理の構築を目指すとともに、次世代を担う研究者の育成に努めています。

また、附属エネルギー複合機構研究センターでは、海外の様々な研究機関との連携を通して国際共同研究を推進するとともに、民間企業の技術者・研究者の方々に先端装置を提供するなど、エネルギーに関わる産業界の技術イノベーションの創出に貢献しています。

キャンパス公開では総合展示や公開ラボを通じ、エネルギー理工学研究の最先端の成果をわかりやすく説明します。





私たちの生活の場としての「人間生活圏」のほか、私たちをすっぽり包んでいる「大気圏」、大気圏の中で呼吸している「森林圏」、外につながっている「宇宙圏」をまとめて、「生存圏」と定義しました。

生存圏研究所は、人類が直面している諸問題を包括的に捉え、生存圏を「診断」し「治療」するための基礎科学と技術開発を振興することで、ヒトと自然が共存・共栄する生存圏を構築していくことを目的としています。



生存圏研究所では、地球環境問題やエネルギー・資源の枯渇などに対応する生存圏科学の振興を目指し、共同利用・共同研究拠点として、学内外のさまざまな分野の研究者が協力して解決方法を研究しています。

ミッション

生存圏研究所は、「人類の持続的発展のための科学」をキーワードに、直面する諸問題の解決のために、科学的診断と技術的治療の視点から、下記の5つのミッションに鋭意取り組んでいます。

(1) 環境診断・循環機能制御

大型大気観測レーダーや衛星等を用いた精密測定により、現状の大気環境を診断します。資源・物質循環に関わる植物・微生物群の機能の解析と制御を通じて、化石資源によらない植物バイオマス資源・有用物質の継続的な生産利用システムの構築を目指します。

(2) 太陽エネルギー変換・高度利用

太陽エネルギーを変換し高度に利用するために、マイクロ波応用工学、バイオテクノロジーや化学反応等を活用し、太陽エネルギーを直接に電気・電波エネルギーや熱等に変換するとともに、バイオマスを介して高機能な物質・材料に変換して有効利用する研究に取り組みます。

(3) 宇宙生存環境

人工衛星、宇宙ステーション、ロケット、地上レーダー、計算機シミュレーション等を用いて、放射線帯や磁気嵐の変動等の理解を深め、スペースデブリや地球に接近する小惑星等の宇宙由来の危機への対策を提案することで、気象・測位・通信衛星等の宇宙インフラの維持発展にも貢献します。

(4) 循環材料・環境共生システム

環境共生とバイオマテリアル利活用を両立するためのシステムを構築し、循環型生物資源の持続的利用を進めます。これにより埋蔵資源の大量消費に基づく生存圏の環境悪化を防ぐとともに、生物の構造や機能を最大限に引き出す材料と利用技術を創成して、安全・安心で豊かな生活環境をつくり出します。

(5) 高品位生存圏

ミッション1から4の成果を基礎に、人の健康・環境調和、脱化石資源社会の構築、生活情報のための宇宙インフラとその維持、木の文化と木材文明を通じた社会的貢献などに取り組み、生存圏の質を向上させます。

生存圏未来開拓研究センター

2022年4月に設置された、生存圏科学の社会的貢献を探究する学際研究プラットフォームです。専任教員に加え、実務経験豊富な参画教員によるチーム型研究ユニット（地域森林価値循環ユニット、航空宇宙レーダー革新ユニット、生存圏標準化戦略ユニット、バイオマスプロダクトツリー産学共同研究ユニット、GreenX次世代リグノセルロース素材ユニット）を中心として統合的な新分野開拓に挑戦しています。

生存圏研究所ではSNS等で情報発信しております。
お気軽にフォローください。

ホームページ：<https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/>

YouTube：<https://u.kyoto-u.jp/rish-channel>

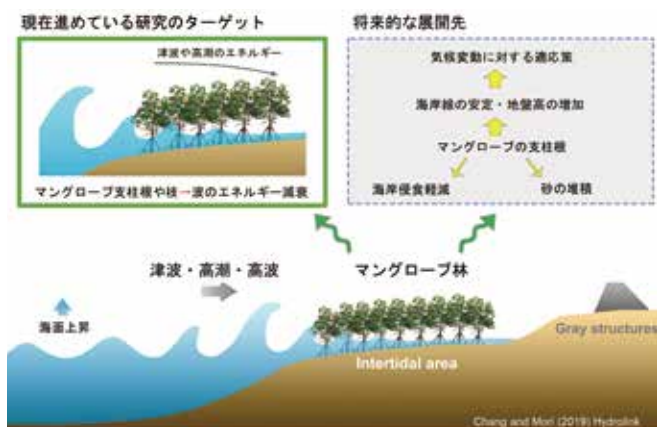


X(旧Twitter)

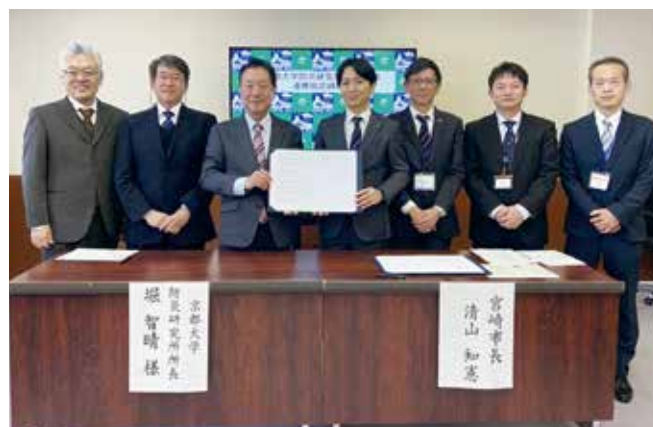


instagram

本研究所は昭和26年に設立されました。災害学理に関する研究、その応用から防災に関する総合研究へと発展を続け、現在、4グループに属する4研究部門・6研究センターの構成で、防災学に関する国際的な研究拠点としての役割を果たしています。当初、国土の荒廃が災害発生の大きな要因であった時代から、社会の複雑な営みが新しい災害の発生をもたらす時代へと移るのに伴い、研究の一層の高度化、国際的に高い水準の学術研究の維持・発展を図り、萌芽的・独創的な研究に取り組んでいます。



マングロープの減災効果に関する研究成果の概念図



宮崎市との連携協定の締結式の様子

総合防災研究グループ

災害に強い社会を実現するための科学と技術の総合化

社会防災研究部門

社会の変遷と災害の歴史を踏まえ、災害に強い生活空間、都市、地域、世界を目指し、長期的展望に立って総合防災研究のための方法論を構築します。

巨大災害研究センター

災害の物理過程の解明、情報処理過程での災害対応のあり方の提案、リスク軽減対策の向上から、危機管理による巨大災害の包括的な減災策を確立します。

地震・火山研究グループ

地震・火山災害からの人命・資産保全や安全確保のための科学的基礎および応用技術に関する研究

地震防災研究部門

地震発生から、強震動の生成、地盤・構造物基礎の動特性、構造物の地震応答評価までの諸問題を解明して、構造物の耐震性を向上させる設計・施工・対策に活かす基礎研究を進めることで、地震防災を適した社会の安全安心に貢献しています。

地震災害研究センター

地殻活動のモニタリングを通じて、地震発生場および地震発生過程の研究を進めるとともに、津波や地震動による建築物や社会インフラの被害推定など地震リスク評価に資する研究を行っています。

火山防災研究センター

わが国で最も活動的な桜島火山を世界的レベルでのフィールド研究拠点として位置づけ、小規模噴火から巨大カルデラ噴火までの規模と多様な噴火様式に対応した火山噴火発生予測の研究を行っています。また、焼岳火山の山岳流域を土砂災害のフィールド研究拠点として位置づけ、土石流や泥流の研究を行っています。

地盤研究グループ

地表変動による地盤災害の予測と軽減のための科学的基礎および応用的研究

地盤災害研究部門

地盤災害の予測と軽減を目指した研究を展開し、液状化、地盤沈下、斜面崩壊、地すべりなどについて学際領域を分野横断的に開拓して研究します。

斜面未災害研究センター

地すべりによる斜面災害に関する基礎的研究を行うと共に、斜面災害を対象とした災害予測や防災リテラシー向上につながる「斜面未災害学」を学問領域として体系化し、国際共同研究の企画調整を実施しています。

大気・水研究グループ

地球環境の変化の中で大気と水に係わる災害の防止・軽減と水環境の保全

気象・流域災害研究部門

都市域・地域・地球規模に至る様々な大気、水および流砂に関する現象の解明と予測、及びそれに伴う災害の軽減・防止に関する研究を実施します。

気候変動適応研究センター

気候変動に伴い将来激甚化が懸念される気象災害・水災害の予測や社会の適応についての研究を行うとともに、同研究についての学内外の研究者による共同研究や成果の社会還元を推進します。

水資源環境研究センター

地域規模・地球規模での水・物質循環を科学的にモデル化することを通じて、水災害の防止と軽減・水資源の保全と開発について考究します。



大学院農学研究科（宇治地区）

Graduate School of Agriculture (Uji Campus)

「生命・食料・環境」

21世紀に入り、人口の増大、環境の悪化が益々深刻化する中、食料の持続的生産を可能にする抜本的な技術開発が必要とされています。一方、本格的な長寿社会を迎える先進諸国では、人々の健康を増進し生活習慣病を予防することを通して、「生活の質」の向上に貢献するような食品が求められています。さらには、環境ホルモンや新規病原微生物による食品汚染、そして遺伝子組み換えやゲノム編集生物の食料化等、私達の生命・食料・環境に関わる課題は山積しています。このような広汎な課題に対処するために、農学研究科に属する下記の各分野は、ここ宇治キャンパスにおいて、バイオサイエンス及びバイオテクノロジーの最先端の知見と手法を駆使し、独創的な研究を展開しています。

大学院農学研究科(宇治地区)の構成

農学専攻

品質設計開発学分野：生理機能性や食品機能性を持つ高品質なタンパク質を産生する有用作物の開発を目指して、研究を行っています。具体的には、作物タンパク質の機能性、立体構造、細胞内での立体構造形成機構および蓄積機構の解明を行っています。さらに、改変タンパク質を微生物や植物体で発現させ、その構造や機能を調べています。

品質評価学分野：食品やその原料素材を対象として、多面的な手法を駆使し、品質の評価を行っています。食品の品質として、主に嗜好性（味や匂い、食感など）と加工性に関わるテーマを取り上げています。具体的には、成分の網羅解析、食品構造と品質の関係、味覚機構、香り成分の生体への影響に関する研究を進めています（図①）。

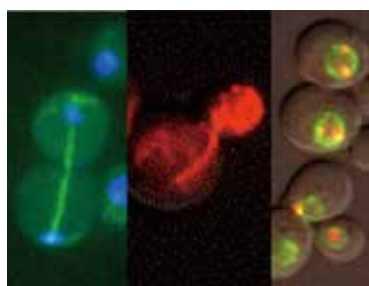


図① 食品の品質を評価する

応用生命科学専攻

エネルギー変換細胞学分野：細胞をとりまく環境や栄養状況の変化に応じて起こるさまざまな適応機構について、それらの変化の感知・シグナル伝達・遺伝子発現制御機構などを、主に酵母をモデル生物として、分子遺伝学、分子細胞生物学などの手法を用いて解明を試みています（図②）。

応用構造生物学分野：私たちは、タンパク質や酵素の立体構造をX線結晶構造解析により決定し、その構造（かたち）と機能（はたらき）の関係を明らかにする研究をしています。



図② 酵母の細胞内構造体の蛍光顕微鏡写真

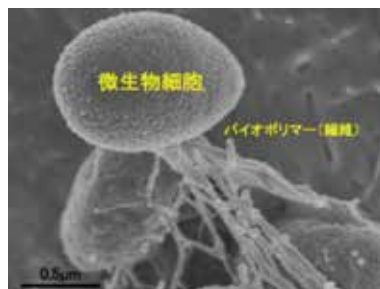
最近ではオボトランスフェリン（卵白に含まれるタンパク質）における鉄の結合・解離のメカニズムや、プルラーゼ（酵素）がデンプンを分解するメカニズムを解明しました。

食品生物科学専攻

食品生理機能学分野：食品／成分が有用な機能を発揮する機構を明らかにするうえで、その基礎となる生体の生理機構を中枢性疲労や行動する動機（モチベーション）の生成、肥満や油脂の美味しさに関して研究しています。また、食品の膨大な分子種から意欲向上、ストレス緩和、学習促進、食欲調節作用を示す新規物質を見出し命名してきました。さらに、食の潜在機能を引き出し世界的な高齢化や気候変動などの問題解決を目指しています。

また、食品の摂取は肥満や糖尿病などの『生活習慣病』と密接に関係し、生活習慣病の多くは肥満が原因となっていることも分かってきました。私たちは実験動物や細胞／遺伝子レベルで肥満や生活習慣病の基礎研究を詳しく行い、ヒトの生活習慣病の防止や改善に結びつく食品や医薬品の開発へと発展させようとしています（図③）。

生物機能変換学分野：微生物を用いて、持続可能な開発目標SDGsの達成に貢献することを目指しています。例えば、ヒト体内の各組織に常在する微生物のはたらきを調べています。また、微生物の潜在能力を発掘し、食品廃棄物や海洋未利用資源から有用素材（バイオ燃料やレアメタル）を生産・回収する細菌や酵母を創成しています。



図④ バイオポリマーを分泌生産する微生物

バイオポリマーを生産する微生物は大気中の窒素を直接利用できることから、「大気窒素」の有効活用にも挑戦しています（図④）。以上の通り、微生物を用いて未来を明るくすることに努めています。

部局紹介

理工系に人文社会系の視点を取り込みつつ 「エネルギー問題」克服のための新学際領域を確立

研究分野

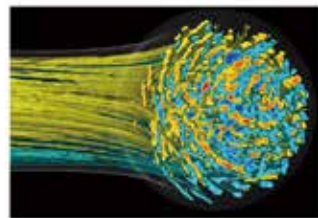
エネルギー物理学講座

プラズマ・核融合基礎学

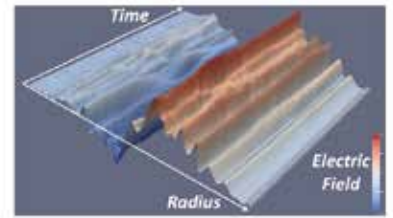
核融合を目指した理論プラズマ物理学の探求

宇宙で最も普遍的な物質状態である「プラズマ」は、高い自由度を有する荷電粒子多体系であり、このプラズマが創出する複雑現象の探求は、将来の基幹エネルギーとして期待される核融合発電の実現や、超高強度レーザーによる小型がん治療装置の開発、高エネルギー宇宙線生成起源の解明などに重要な役割を果たします。

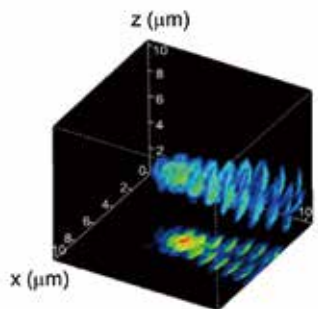
我々の研究室では、核融合プラズマ中の乱流輸送現象を、スーパーコンピュータや機械学習(AI)を活用することで理解するとともに、レーザー生成相対論プラズマ中で創出される無衝突衝撃波や強磁場形成を、実験とシミュレーションを併用することで解析しています。そのような多角的な研究を通して、プラズマ物理に関する幅広い研究・教育活動を行っています。



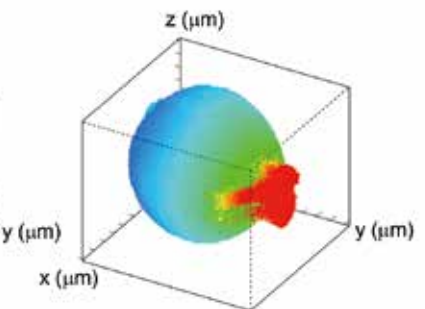
核融合プラズマ中の乱流構造



輸送障壁として機能する電場シアの形成



水素クラスターへの高強度レーザーの照射により、光速程度で前方に噴き出す電子(左)とプロトン(右)

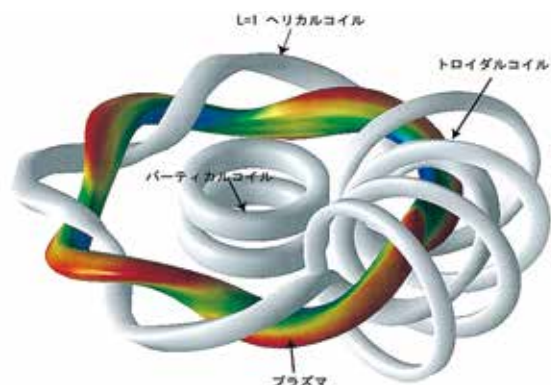


電磁エネルギー学

プラズマ物理と先端技術をつなぐ

核融合エネルギーシステムの研究

当研究室では、人類の究極のエネルギー源の一つとされる核融合（フュージョン）エネルギーの実用化に向け、システム科学の観点から研究を行っています。1億度を超える超高温の物質を自在に制御することは、核融合エネルギーの利用に不可欠な課題です。プラズマの不安定性制御や最適な磁場構造の探索などの研究を進めるとともに、国内外の実験や炉工学のプロジェクトに学生と共に参加し、未来のエネルギー開発を担う人材の育成にも力を注いでいます。



ヘリオトロンJプラズマ



大学院工学研究科（宇治地区）

Graduate School of Engineering (Uji Campus)

原子核工学専攻

素粒子、原子核、原子や分子など、量子の科学に立脚したミクロな観点から、量子ビーム、ナノテクノロジー、アトムテクノロジーなど最先端科学を切り開く量子テクノロジーを追究するとともに、物質、エネルギー、生命、環境などへの工学的応用を展開し、循環型システムの構築を目指しています。

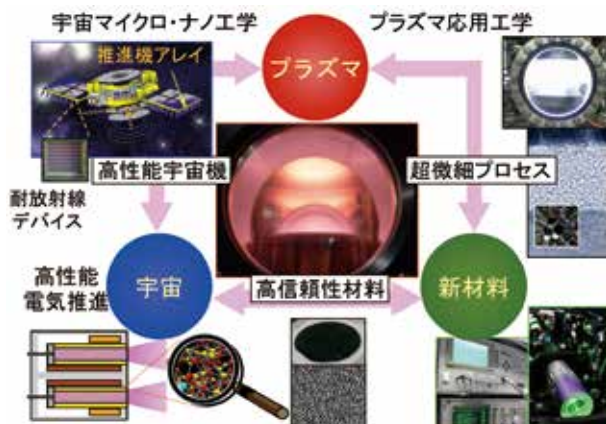


航空宇宙工学専攻 推進工学分野

—未来を拓くプラズマ科学—

“宇宙工学から、極限環境物理学・ナノテクノロジーまで”

宇宙環境に代表される極限環境下における長期ミッションを実現する材料の高信頼性化には、電離気体「プラズマ」と固体材料とのナノスケールの物理的・化学的・反応機構の理解と制御が不可欠です。この研究室は、プラズマ工学、宇宙工学、信頼性物理学の分野で活動しています。



附属量子理工学教育研究センター

量子理工学教育研究センターでは、タンデム型イオン加速器、ヴァン・デ・グラフ型イオン加速器の共同利用を中心に、広く学内へ施設を開放しています。



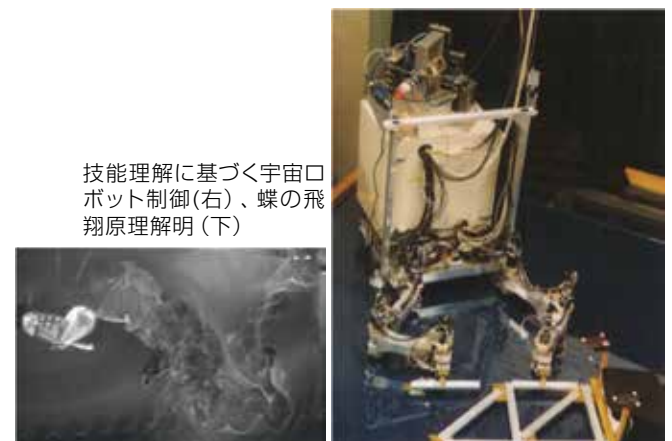
加速器の本体部分。200万ボルトの電圧でイオンを加速します。



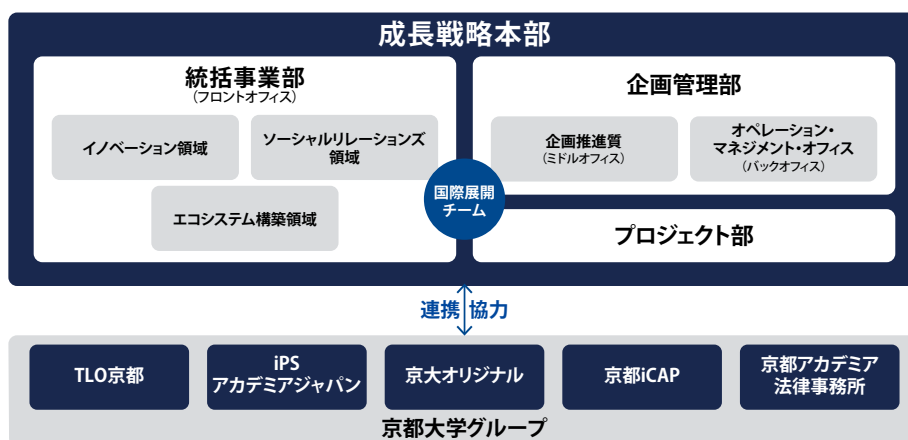
革新的な量子ビームを用い、ナノテクノロジーや生命科学分野の新しい分野を切り拓く研究開発を進めています。

航空宇宙工学専攻 航空宇宙力学講座

飛翔する昆虫などの生き物も含め、航空宇宙における運動制御の特徴（面白さ）は、運動環境や流体の物理特性、身体や航空宇宙機自身の力学的特性を巧みに利用して運動を制御する点にあります。この研究室では、力学的理解と運動知能に基づく航空宇宙システムの智能化制御とシステム設計について研究しています。



技能理解に基づく宇宙ロボット制御(右)、蝶の飛翔原理説明(下)



統括事業部

イノベーション領域

研究成果の活用と出口戦略の策定を行います。知的財産の権利化、産学共同プロジェクトの組成やマネジメント、研究成果を実用化に結びつける橋渡しを行うための組織づくりなどをサポートします。

ソーシャルリレーションズ領域

社会との関係を深化し、寄付をはじめとする外部支援の獲得と、持続的なパートナーシップ形成を担います。同窓会やOB・OGネットワークの組織化、ステークホルダーとの継続的な関係構築など、大学と社会との多様な接点を設計。寄付などの資金獲得に加え、集まった支援を大学の活動や新たな価値創出へと還流する循環につなげます。

エコシステム構築領域

研究成果のスタートアップ化を推進し、学術と社会・経済が連環する仕組みを築きます。GAP ファンドから創業までシームレスな伴走支援とアクセラレーション、その基盤を整備。内外のエコシステムプレイヤーとも連携して知から新産業を興し、知と価値の持続的循環を創出します。

国際展開チーム

各機能を横断した国際展開業務を担当します。

国際科学イノベーション棟

国際科学イノベーション棟は、京都大学と国内外の大学等の教育研究機関、官公庁等の公的機関、企業等の団体など産官学連携に携わるものが、同一の場所を拠点として、日常的・実効的な交流を図ることにより、京都大学を源泉とする新たな知の創造を促し、地球社会に貢献する新たな価値の創造に資することを目的としています。



企画管理部

企画推進室

中長期事業計画の策定・推進と組織基盤の強化、ならびにコミュニケーション戦略の実行を担います。目標達成に向けた各種戦略の策定をはじめ、外部資金の獲得や社会実装の促進に向けた企画・分析、環境・情報インフラの整備、人材育成などを通じた組織力の向上を推進します。また、コミュニケーション戦略や広報・IR 活動を通じて、本学の価値発信とステークホルダーとの関係強化に取り組みます。

オペレーション・マネジメント・オフィス

フロントオフィス支援事務はじめ、総務、人事、経理等を担当します。

プロジェクト部

各種プロジェクトに関する情報の一元管理と、実施場所や設備、人材の総合支援を担当します。共同研究をはじめとするプロジェクトの管理を一元化し、研究拠点のセットアップ、研究設備の効率的な共同利用、プロジェクトを支える人材マネジメントまでを包括的にサポートします。

宇治地区先端イノベーション拠点施設

世界トップレベルの産官学連携共同研究を推進する環境・エネルギー開発拠点として、平成 23 年 3 月に宇治キャンパスに竣工しました。

建物には「革新型蓄電池技術開発・高度解析」「次世代太陽電池」の研究を進めるプロジェクトなどが入居しています。

また、当施設は環境への配慮を駆使して建設されており、「太陽光発電システム」を屋上に配備している他、国立大学法人初の「全館 LED 照明」を使用しています。



異文化融合による新学術分野の創生をめざして

本学には理工系、医学・生物学系、人文・社会科学系及びそれらを跨ぐ学際系の附置研究所と研究センター（附置研究所・センター）があります。

それぞれが秀でた強みと特色を有する附置研究所・センターの連携強化により、学部・研究科等とも手を携えつつ、研究機能の一層の強化に向け「研究力強化」「グローバル化」「イノベーション機能の強化」の新たな取組み等を進めることが「京都大学研究連携基盤」の使命です。

特に以下の取り組みを通じて活動を行っています。

(1) 未踏科学研究ユニットにより異分野融合による新分野創成など、未踏科学への研究活動を推進する。

(2) 年1回開催する「京都大学附置研究所・センターシンポジウム」、東京で定期的に行われる「京都大学丸の内セミナー」を通して、最新の研究成果を広く社会へ発信する。

(3) 次世代研究者の支援を通してグローバル人材育成に貢献する。

(4) 附置研究所・センターが持つ大型設備の情報共有を通じて共同運用などを高めるなど研究のための運営基盤を確保しながら相互の連携の強化をはかる。



第21回京都大学附置研究所・センターシンポジウム



同シンポジウムのお昼の休憩時の中・高校生と京都大学の先生との交流コーナーの様子。たくさんの中・高校生に参加いただきました。



シンポジウムポスター(第21回/第20回)



宇治地区の4部局(化学研究所/エネルギー理工学研究所/生存圏研究所/防災研究所)を含む18の附置研究所・センターの連携強化により異分野融合・新分野創生の促進を図っています。



宇治地区設備サポート拠点 (USACO)

Uji Support Center of Apparatus Collection, KYOTO UNIVERSITY



宇治地区設備サポート拠点 (USACO) について

京都大学宇治地区は、広範な分野をまたぐ4つの理工系研究所（化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所）が立ち並ぶキャンパスです。このため宇治キャンパスには、分野を超えた多種多様な最先端計測分析機器が数多く設置されています。このような最先端機器群を学内外の共用機器として活用し、大学の枠を超えて世界の学術を牽引していくことが、限られた科学技術予算を最大限有効に活用するために欠かせない視点となっています。宇治地区設備サポート拠点は、宇治キャンパス機器群の共用利用にかかる環境整備を通して研究基盤を強化することで、研究者の最先端研究を後押ししています。ホームページ： <https://www.jimu.uji.kyoto-u.ac.jp/uji-sces/>

設備サポート拠点 (USACO/ 桂結 / MaCBES) の合同機器検索サイトを公開しました

京都大学では、世界トップレベルの教育研究基盤を持続・強化していくため各構内に設置されている優れた設備の共用化を図り、学内外の研究者等に広く使用を可能とする5つの「京都大学設備サポート拠点」が稼働しています。USACOでは、共用機器利用の利便性向上と活用促進を行うために、本部構内設備サポート拠点 (MaCBES)、桂地区の設備サポート拠点 (桂結) と共同し、3拠点合同の機器検索サイトを製作し、この春より稼働を開始しました。拠点間の連携を更に強化することで、新たな共同研究や学際研究の活性化を目指しています。

<https://macbes.kufsc.kyoto-u.ac.jp/form.php>



ご挨拶

宇治地区設備サポート拠点長 西嶋 一欽 (防災研究所)

宇治地区設備サポート拠点 (USACO) は、京都大学の設備マスタープランに基づく全学的な設備共用体制整備に関する宇治地区における拠点として、令和元年 (2019 年) 10 月より正式に運用を開始しました。当拠点では、これまで宇治地区4研究所（化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所）が進めてきた共用機器体制をベースに、窓口を一元化することにより、学内外の皆様にとって使いやすい体制づくりを目指しております。当拠点が保有する機器一覧をご覧ください、ご利用になりたい機器がございましたら遠慮なくお問い合わせください。

皆様のご利用を心よりお待ちしております。

宇治おうばくプラザ

「京都大学宇治おうばくプラザ」は、世界の研究者が国際会議に集い、また、地域住民の方々をはじめ一般の方と学生、教職員との交流が可能となるような、人が集まるキャンパスを目指して平成21年10月に建設されました。



きはだホール

利用可能時間

午前9時～午後8時30分(年末年始12月28日～1月3日、創立記念日6月18日、8月の第3週の月曜日～水曜日を除く)
※臨時に休館、開館することがあります。

予 約

きはだホールは利用日の1年前から、
セミナー室は6ヶ月前から予約可能です。

施設概要

施 設 名	施設使用料 (／h)	収容人数
きはだホール	11,000円	約300名
セミナー室 1	2,100円	約36名
セミナー室 2	1,100円	約18名
セミナー室 3	1,100円	約18名
セミナー室 4	2,100円	約30名
セミナー室 5	2,100円	約24名

※セミナー室1と2、セミナー室4と5は間仕切りを取って使用可能です。
※レストラン、コンビニエンスストアが併設されています。

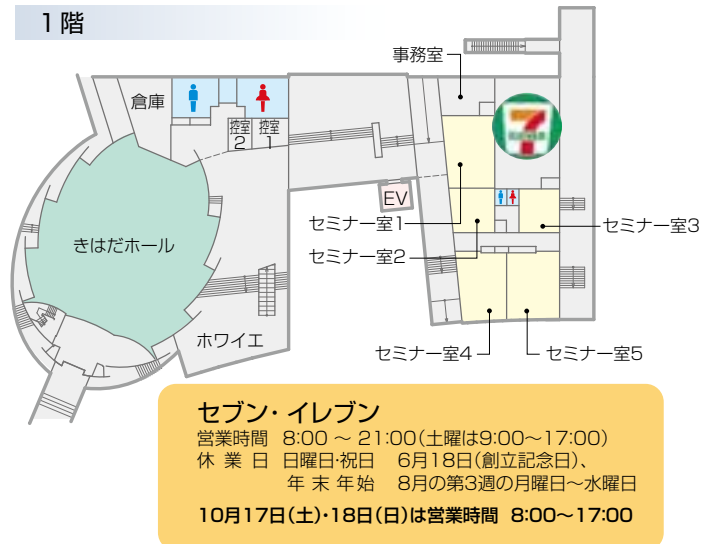
ご利用いただける設備 (無料)

ポスターパネル／プロジェクター／スクリーン／ピアノ

2 階



1 階



申込方法

下記担当まで電話または電子メールにて施設名、日程、使用目的等についてご連絡ください。
メールにてお申し込みの際は、ご担当者の連絡先を明記してください。

担当：京都大学宇治おうばくプラザ事務局
Tel：0774－38－4394
e-mail：obaku@uji.kyoto-u.ac.jp

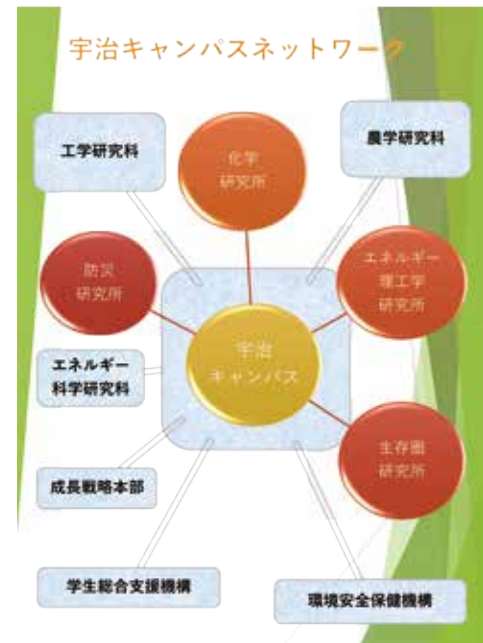


宇治キャンパス紹介



京都大学宇治キャンパスは、吉田本部キャンパスから東南約 17 kmの宇治川右岸に位置しています。この地は、古来巨椋池（昭和 16 年干拓）と宇治川の結節点として水陸交通の要衝であり、近辺には多くの古墳や古社寺が点在する伝統ある地域でもあります。宇治キャンパスに隣接する岡屋津（現在の隠元橋付近）は、かつて、国内外の船が集まる重要な港であり、黄檗山萬福寺の建材もここから陸揚げされました。平安時代、この地は中央貴族の別業の地として栄えました。地名の「五ヶ庄」は近衛家の領地である「五箇庄」に由来するものです。明治時代、宇治キャンパスの地一帯に火薬製造所が設置されました。戦後、進駐軍の管理下に置かれていましたが、逐次、病院や運動施設の他、京都大学等の教育・文化施設等に衣替えされていきました。昭和 41 年、京都大学の自然科学系研究所を宇治キャンパスに統合するという方針の下、研究所や施設の移転が行われ、現在に至る宇治キャンパスの形がほぼ成立しました。

宇治キャンパスの現在の在籍者は教職員、学生をあわせて約 1,800 名になります。甲子園球場 5.6 個分の広大な敷地は、自然科学系の 4 つの研究所（化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所）のほか、3 つの研究科（工学研究科、農学研究科、エネルギー科学研究科）と 2 つの機構（環境安全保健機構、学生総合支援機構）のサテライト部局、宇治地区先端イノベーション拠点施設（成長戦略本部）から構成されます。また、化学研究所は「国際共同利用・共同研究拠点」に、その他の 3 つの研究所は「共同利用・共同研究拠点」にそれぞれ認定されており、大学の枠を超えた科学研究の拠点として、広く認知されています。



総合研究推進本部(KURA) 宇治キャンパスサテライトオフィス

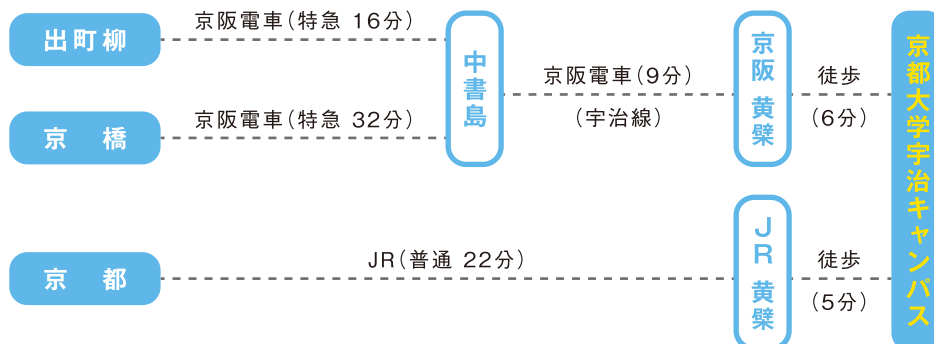
京都大学総合研究推進本部 (KURA) では、大学の改革、研究力強化、国際化等を戦略的に支援・推進するため、50 名を超える URA (University Research Administrator) が活動しています。

KURA 宇治キャンパスサテライトオフィスの URA4 名は、研究者が更に研究活動を活性化できるよう、研究資金獲得に向けた研究構想の相談や国際的な研究活動の促進、産官学連携など研究者を全方位からサポートしています。関連部門と連携しながら、KURA の全学的な機動力と併せて今後も研究現場に密着し、分野や部局を超えた課題にも対応して参ります。



アクセス

●宇治キャンパスへのアクセス(主な交通機関)

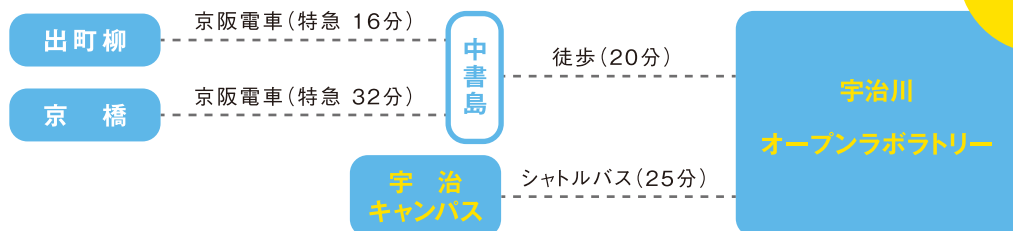


※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

●宇治川オープンラボラトリーへのアクセス(主な交通機関)

《10月17日(土)のみ開催》

事前予約者のみ
見学可能



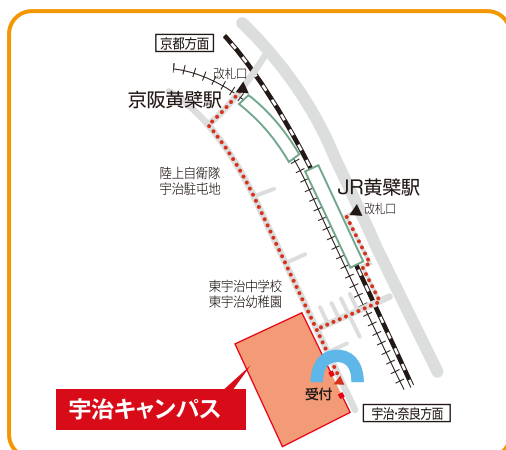
※宇治キャンパスから宇治川オープンラボラトリー見学の事前予約者専用のシャトルバスを用意しています。

(予約されていない方はご乗車いただけませんのでご了承ください。)

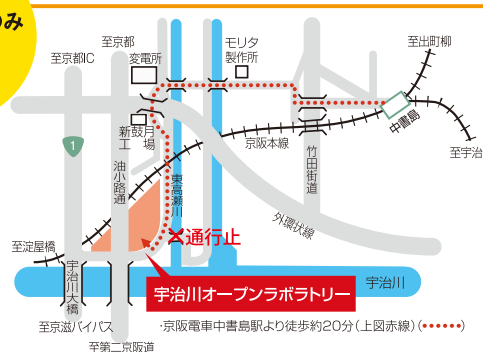
※中書島駅からの送迎バスは、運行しておりません。

※駐車スペースを十分に確保しておりますので、お車でお越しいただけます。

●会場近隣案内図



事前予約者のみ
見学可能



◆宇治キャンパス会場

〒611-0011 宇治市五ヶ庄

◆宇治川オープンラボラトリー会場

10月17日(土) 10:00~16:00

〒612-8235 京都市伏見区横大路下三栖東ノ口





京都大学
KYOTO UNIVERSITY

【写真等撮影に関するお願い】

本イベント開催中、記録および広報活動を目的として、スタッフによる写真・動画撮影を行います。撮影した素材は、本学の広報活動（HP・SNS・印刷物等）に使用する場合がございます。あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

- | | | |
|----|---|---|
| ◆主 | 催 | 京都大学宇治キャンパス公開2026実行委員会 |
| ◆問 | 合 | 先 |
| | | 京都大学宇治地区事務部研究協力課 |
| | | E-mail: opencampus@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp |
| ◆ホ | ー | ム |
| ペ | ー | ジ |
| | | https://www.jimu.uji.kyoto-u.ac.jp/open-campus/2026/ |



※掲載内容につきましては、発行当時のものです。